

2016年4月14日と16日、熊本県益城町は2度の震度7に襲われた。14日の地震を「前震」、16日の地震を「本震」と呼び、関連死を含め230人以上が亡くなった。災害時に大切にすべきことや減災の大切さについて、益城町の西村博則町長、益城町危機管理監の今石佳太さんに話を聞いた。

冷静な判断の大切さを学んだ

熊本地震の前震で天井が傷んだ益城町総合体育館のメインアリーナには、西村博則町長の判断で避難者を入れなかった。このことが、多くの人命を救うことになったという話を役場で聞いて、町長の冷静な判断にすごく驚いた。



野田莉里 記者

もし中に避難者を入れていたら、たくさん犠牲者が出たかもしれない。町長は「1つの判断ミスが命取り」と言った。そんなプレッシャーの中であんなに冷静で正しい判断ができるのはすごいと思った。

神戸と熊本を結ぶ今石さん

熊本地震の震源地となつて大きな被害の出た熊本県益城町に、今年から兵庫県芦屋市の職員今石佳太さんが危機管理監に就任し、復興に取り組んでいる。阪神・淡路大震災も経験した今石さんは「自分の命は自分で守る」「震災を、特に子どもたちに語り継がねばならない」と強調した。



小川 陽 記者

「自分の命は自分で守る」といつてもいいやって守るかわからなかったけれど、お父さんは「家の中にいるときは頭を守る。丈夫な机の下に隠れる。家具や窓から離れる」など教えてくれた。家の外にいたら、看板や外壁、落下物に近づかず、自動販売機、ブロッカーから離れることで自分の命を守れると思う。また、今回の取材で訪れた神戸や熊本の人たちの話を友達や下級生に伝えた。僕の地元で大地震が起きた時、ある程度自分の命が大丈夫なら、困っている人を助けたい。避難所では小学生や中学生が自分から掃除などの手伝いをした。それに手伝いたいと思った。

益城町 西村博則町長

「震災時の的確な判断は人命も左右する」と語る西村博則町長。前震で多くの被災者が避難してきた益城町総合体育館のメインアリーナは天井の一部が壊れており「避難者を入れるのは危険」と判断。避難者には批判する者もいたが、28時間後の本震で天井が落ち、もし避難者を入れていたら多くの死傷者が出るところだった。



益城町危機管理監 今石佳太さん

「被災者にとって、世間の関心が薄れる3年目からが大変」と言う今石佳太さん。今石さんは兵庫県芦屋市職員として阪神・淡路大震災を経験し、現在は益城町の防災対策にかかわっている。



「益城町役場仮設庁舎」がんばるばい益城！くまモンに迎えられて

益城町 布田川断層帯



益城町の布田川断層。民家の庭先に最大70センチずれた断層がV字型に出現した。断層が2本交わっており、「地震のメカニズムの複雑さを実感できる場所として貴重」と天然記念物に指定された。町役場の堤英介さんによると、2本の断層の運動により、V字型になったという。来年には覆いや囲いができて直接には触れられなくなるそうで、記者たちは天然記念物となった布田川断層を目にしっかり焼き付けた。



堤 英介さん



森本星史さん